

リレー随筆



「愛はかげろう」を覚えていますか？

大分市医師会 脇坂昌紀

シンガーソングライターの三浦和人という名前を聞いても多くの皆様はピンとこないことでしょう。しかし、1980年にデビュー曲「愛はかげろう」が爆発的にヒットしたフォークデュオ「雅夢」と聞けば、懐かしく思い出される人も多いと思います。あるいは今でも「愛はかげろう」をカラオケで歌われる方もいらっしゃるかもしれません。当時「雅夢」はテレビの音楽番組の常連でした。三浦和人さんは「雅夢」のリードボーカルで、作詞・作曲も担当していました。「雅夢」の解散後もソロアーティストとしてCD制作や全国でのコンサート、ラジオ番組のパーソナリティなど、精力的に活動を続けており、今年でデビュー38年目になります。

彼は私の大切な友人で、学会等で東京に行った際には彼の家に遊びに行ったり、彼が大分に来た時には私の自宅で一緒に食事をしたりしています。あれほどのヒット曲があるミュージシャンなのに偉そうなところはなく、誰に対しても気さくで、細かい気遣いのできる好人物です。

彼の繊細で心に響く歌の世界を大分の仲間にも知ってほしいと、2011年から大分市内のライブハウスで定例ライブを開催しています。ほとんど手作りのライブで、宣伝のための予算はなく、厚かましくも地元のラジオやテレビに無料でライブ告知や電話インタビューをお願いし、知り合い、友人、同僚、同級生などあらゆる方面に声をかけてチケットを手売りしています。ライブ開催までの準備は大変ですが、ライブが始まった当初は三浦和人さんのことをよく知らなかった人がライブの参加を繰り返すうちに大ファンになり、ライブにお誘いしたことを逆に感謝されることも多く、そんな時ライブ準備の苦労は吹き飛びます。デビュー当時から変わらない伸びやかな歌声、心に寄り添うような楽曲の数々は参加者の心を捉え、会場では感動のあまり涙を流す人さえおられます。

三浦和人さんは今年還暦を迎えます。今年6月には大分市内のホテルで還暦記念ライブ&パーティの開催を予定しており、私も診療の傍ら、開催準備を進めています。フォークソングに興味のある方、ギターの弾き語りに興味のある方、音楽全般に興味のある方、生の音楽に接して日頃の激務の疲れを癒したい方は、ぜひ私までご連絡ください。これまで経験されたことのない歌の世界にご案内いたします。

(次回のリレー随筆は諏訪の杜病院の吉田盛治先生にお願いします。)

リレー
乳鉢

プロ意識とは？

大分郡市医師会 松本俊郎

私のゴルフの鬼門は、“高速パター”にある。練習の時は十分テークバックが取れているのに、本番でいざパターをしようとするするとテークバックがなく、カップに慌てて流し込む打ち方になるらしい。それが目にも留まらぬ速さなので、友人から“高速パター”と名付けられた。勿論、入らない。一種のイップス病である。実はこのイップスで長期間悩まされたのが、ジャックニクラウスの後の新帝王と呼ばれたトムワトソンである。ある日突然イップスに襲われ、短いパターが入らなくなったとのことである。

私がカナダに留学していた1996年のことだが、PGAツアーのメモリアル・トーナメントの最終日が放送されており、そこでトムワトソンが最終組でトップに立ち、18番を迎えていた。1987年のナビスコ選手権を制して依頼、勝利に見放され、なんと9年ぶりの優勝チャンス場面であった。前組で回っていた新鋭のデビット・ジュバルが残り3ホールをバーディ、イーグル、バーディで上がり、5打差を一挙に1打差に縮めた。トムワトソンは最終18番でパーオンし、4メートル程の下りのフックラインが残ったものと思う。2パットで優勝であるが、彼は強気のパターを選択し、見事真ん中から沈めて9シーズンぶりの優勝を手にした。ただ、もしカップを外せば1メートル以上はオーバーするであろう、強めのパターであった。イップス病に悩むトムワトソンなので、もしカップを外せば返しが確実とは言えず、外せばボギーでプレーオフとなり、勢いからすればプレーオフでの勝率は低かったものと思われる。何故、彼は距離を合わせずに、バーディを取りに行ったのか腑に落ちなかった。ところが、次の日の新聞記事で、その理由がわかった。

記者も同じ質問をしており、それに対して彼は、「下りのフックラインは自分の最も得意とするラインである。距離を合わせるのは簡単だが、バーディが取れる自信があるのにそれをしないのは、プロゴルファーとしての私のプライドが許さない」と答えた（英文を読んだので、多少ニュアンスが異なるかもしれないが）。この言葉に強く感銘を受けた。8シーズンも勝ちがなく、もしここで勝利を逸すると、この後永遠に勝てないかもしれない状況下で、勝利よりプロとしてのプライドを選んだ。これが紛れのないプロ意識だと思う。私は画像診断を専門にしているが、やはり診断医としてのプロ意識はこれからも仕事を続けるうえで、大切にしたいと思っている。

★次回は、有田胃腸病院副院長の脇坂昌紀先生にお願いしています。


 乳鉢

『BOSS 考』

大分郡市医師会 秋吉 達次郎

中学生までは、学級委員長や生徒会長なんかもし、“長”とつくものがイヤじゃなかったが、“参謀”とか“平”とか、そういう方が自分に合ってる気がする。そのせいばかりじゃないが、午後の休診日を中心に、いろんな病医院に検査や治療にいつてる。（“平”で。）そんなこんなで、たくさんの医師同士や、病医院の事務職とも繋がりがあつて、ある意味医療の「lobbyist」みたいだ。

日本の行政のトップは安倍さんだが、彼もどうもBOSSの器じゃないような気がしてならない。（今、池田勇人の本を読んでるので、なおさら差を感じるのかな。）今回リレー随筆を頼まれた岩男さんとは、高校時代から、かれこれ40年来の付き合いがある。もし岩男さんが、国や市政に立候補したら、僕の全てのコネクションを使って、参謀役をかって出るのにな。（普段の僕は市長選でも、市議会選でもノータッチ。）

さて、さて、社会人になってから、新しく知り合つて、仲良くさせてもらつてゐる人達に、なぜか“大将”と呼ばれる人達が多い。初めは3人の大将（70代、60代、50代）について書こうと思つたが、あまりにも長くなるので、今回は50代の大将（BOSS）について書こう。

行列必死。営業時間は午前11時から午後1時か、2時頃まで。売り切れ次第終了の“〇〇ラーメン”の大将。大将とは15年くらいの付き合いで、その上家族ぐるみの付き合いだ。（息子さんは今、売り出し中の“SIX LOUNGE”のギター&ボーカルだ。）

最初は、僕の知り合いに教えてもらい、あまりに美味しいので、しょっちゅう通いつけるうちに、ある日カウンターから大将が身を乗り出し、「今度、一杯、行かん？」とお誘いがあり、僕は「はい」と答えた。まあ、それからは意気投合して、しょっちゅう2人で飲み会。そしてハチャメチャ。大概一度飲みに行つたら、5件くらいハシゴ。妻が「また、大将と飲みに行くん。」と呆れてた。大将は僕より1歳上。まあ飲みみっぷりのいいこと。いつも午前様。最後にいつもの個人タクシーを呼び、「大将、一緒に帰ろう。」と誘つても、夜の夜中、都町に一人で消えてしまう。そして、翌日朝7時頃「達ちゃん、おはよう。起きてるかえ、また行こうな。」と、電話してくる。「大将、何時に起きたん？」と聞くと、「朝、店に5時半に入つたで。」と…いやはや。

スナックやクラブで、お気に入りの娘が横についていると上機嫌で、××の娘がついた日にゃ〜、いつも寝たふり。そして30分くらいして「達ちゃん、次、行こうか。」と。ある時なんかは、2人でクラブに行くと、他のお客さんが誰もいない。すると大将が「おーい、みんな来い。全部来い。それと、ビール20本。」と15人くらいをつけて飲んだりしたこともあつた。大概いつもの店では、レミーを1本空けて（本人はビールばっか飲んで、他の人に飲ませ上手。）1本必ず入れて帰る。一度は、店のママが潰れた時もあった。またある時は、いつものように何件もハシゴして、僕の行きつけのラウンジのママと、大将の行きつけのクラブのママを連れ、いつも最後に行つた年齢のいったママのスナックへ行き、3人のママと、大将と僕の5人で飲んだこともあつた。とにかくハチャメチャ。

大将は福岡で、今は伝説となっている丸八ラーメン（福岡のミシュラン2つ星の、油山山荘というフグ料理屋の大将が、ラーメンが好きで好きで始めたラーメン屋さん。ビルの立ち退きにあい、一時閉店。その後TV局で、まぼろしのラーメン屋さんで紹介されたり、油山のラーメン祭りなど、今の時代インターネットで観てみるのもおもしろい。）で、修行を積んだとのこと。

数年前、南区で丸八ラーメンが復活した際は、インターネットの『九州ラーメン紀行』で瞬く間に一位となったほどで、数年前、丸八のラーメン軍団（名島亭や丸八ラーメンの支店の人や、一風堂や大砲ラーメンなど、ほとんどの有名なラーメン屋さんの釜を作っている職人のサコタさん達が、金曜日の昼から天ヶ瀬温泉で宴会を始め、土曜日朝から旅館で飲んで、大分に移動し、キッチン丸山で飲んで、その後、居酒屋等で飲んで、そして、午後9時頃、飲んでいるクラブから僕に「達ちゃん、今、丸八の大將らと飲んどるけん、でてきない。」と、電話してくる。僕が行くと、そのまま夜中まで飲んだ。みなさん夜、寝ている以外は飲みっぱなし。…いやはや。

大將の作る豚骨ラーメンは、あっさりしてて、コクがあり、毎日食べても飽きのこない味だ。博多でもいろんなお店で食べたが、圧倒的に大將のラーメンの方がおいしい。「豚骨ラーメンは、九州が本場。それで一番おいしいからおそらく日本で、その上、日本が発祥なので世界一だ。」と大將に言ったら、大將の目が、釣り用のクーラーバッグにいった。そこには古ぼけた字で『宇宙一』と書かれてあった。…いやはや。

以前「達ちゃん、伊勢丹からオファーがあったんやけど、どうしよ。」と電話があった。「あの新宿の伊勢丹から？」と。よくよく聞いてみると、伊勢丹のバイヤーが来て、伊勢丹で「夏の大九州展」をやるので、めんたいとかは決まったが、ラーメンは大將のとこのを、ぜひ出したい。」と言ってきたとのこと。さすが伊勢丹、舌がいいね。「九州で一軒だけ選ばれたんやけん、せっかくやから行きよ。」と言ったが、「店閉めて行ったら、お客さんに悪いし。」と悩んでいて、丸八の大將に相談すると、「〇〇（大將の名前）、俺が行く。」と、快く引き受けてくれた。かくして、スープを連日多めに作って、冷凍して空輸した。伊勢丹の九州展ウィークの時は、伊勢丹の屋上から、腕組した丸八ラーメンの大將の大きな垂れ幕が、掲げられたらしい。…いやはや。

大將のここは、年末チャーシューを限定で売りに出すが、僕には「達ちゃん、バラ何枚いる？」と、生のバラ肉をくれる。（自分で巻いて作りよ、ということ。）大將に習ったので、同じチャーシューを作れる。そして、「TVで偉そうなこと言うてる、若いこわっばラーメン職人が作る醤油ラーメンやら、塩ラーメンなんか、簡単なんや。」と僕にレシピを教えてくれ、本当においしい醤油ラーメンが作れるようになった。ラーメン以外にも、大將が修業時代（バブルの頃）に、シーホークホテルの中華料理店に“一億円”でヘッドハンティングされた六本木のシェフがいた。そのシェフのレシピの“焼売”を、僕たちは“一億円のレシピの焼売”と呼んでいるが、その“焼売”の作り方も教えてもらった。今では僕の作った“焼売”が妻の一番の好物になった。

さすがにお店のラーメンは作れないが、大將と好意にさせてもらっているので、我が家の冷凍庫には、一年中いつでも“〇〇ラーメン”がストックしてある。

これからも、絶品のラーメンをよろしくね。大將。

社会人になってから、特にBOSSの人達にかわいがられる。今年の、同門会で卒寿のお祝いをした高木良三郎先生も、大分医大の学長の頃、よく僕に「ゆっくりしたら、あーた（あなた）の所に遊びに行くから。」と言われていて、10年前、奥さんと一緒に湯平に遊びに来られて、泊って行かれた。よくよく考えたら、学長は大学のBOSSだもんな（学長は、とっても気さくな人です）。

あれやこれや書いてきたが、大学時代は、留年組も含めて2年～6年くらいのヤンチャ連中のBOSSだったんだよな。（※詳しくは昨年、一昨年の大分郡市医師会報の“クレッシェンド”を参考にしてください。）

では、次のリレー随筆は、大学の松本俊郎先生に。（この間の飲み会は、先生の体調がもう一つだったし、僕は、OBSの松井の徳さんに飲まされすぎて、記憶が飛んでしまった。16日は、岩男さんとこで、また楽しくdrinkしましょ。）

それでは、他のBOSSについては、いずれまた。



リレー
乳鉢

なぜ走る？

大分郡市医師会 岩男 裕二郎

平成29年11月12日、福岡マラソンに参加した。もう何回目のフルマラソンだろう。記録はグロス5時間27分44秒、ネット5時間20分10秒。相変わらずの制限時間内にゴールできれば良いとのスタンスで走っている初老のおじさんの記録だ。今までのマラソンで1番良い成績が、東京マラソン2015のネット4時間56分47秒。市民ランナーの目指すサブ4は夢のまた夢である。

葉の卸のMRさん、大分市内のN消化器外科のN先生ご夫妻、Y循環器クリニックのY先生、トリアスロンの日本代表選手に選抜され、カナダまで遠征した由布市S消化器大腸肛門クリニックS先生等、私が走り仲間と勝手に思い込んでいる人々はサブ4どころかサブ3を目指し、月間200から300キロのランを熟している。体型もスリムでBMIも20以下、走り始める前と比較すると少なくとも10キロ以上の減量が出来ている。皆さん努力家である。

私は先月の月間走行距離は50キロ前後、BMIは25、体型は糖尿病治療のために内服しているSGLT2のお陰で数キロ減量し、患者さんからいくらかスリムになったと最近褒められている。日々の努力を怠っている典型的な人間である。

以前当院の副院長だった後藤茂先生に「お金を払ってまで走りに行く人の気持ちがわからない」と言われた事がある。確かにそうだ。きついし、長いし、太ももが痙攣し芍薬甘草湯を内服し、ストレッチし、最後は足を引きずりながら、ランナーズハイを感じることなくどうにかゴールする、私のマラソンは何時もそうである。周りのランナーとの他愛もない語らい、沿道の応援、ボランティアの方々とのハイタッチ、エイドのバナナやミカン、給水の美味さ、前を走っている猫耳をつけた若い女性のグラマラスなボディライン、愛妻の応援、ゴールした時の達成感、喜びはあるが、なぜ走る？のかは自分でもわからない。

今家業を継ぎ湯布院町で地域医療を実践しているつもりだが、介護施設を持たず、経営努力もせず、医療政治経済の波に呑み込まれながら、マラソン同様、制限時間内にゴールできれば御の字のスタンスで肩に力が入りすぎないようにしている。ただ地域医療の制限時間は急速に早くなっている。このままでは本業の医療には参加できなくなるのではと危惧している。沿道で応援してくれる人々（患者さん）がいる限りは医療と言うマラソンにも参加し、もがきながらもゴールしたいと思っている。


 乳鉢

感謝



大分郡市医師会 足立昌士

私は湯布院で開業して、今年で15回目の秋を迎えようとしています。数少ない医療法人ではない診療所をやっております。今日まで様々な事がありましたが、その都度周囲の方々に助けられ、何とか元気で仕事ができています。その中でも最大の試練は10年前の胃癌でした。ある日、便通異常があり、知り合いのN先生にCFをお願いした際に、「GFもついでにやっときますか？」と言われお願いしました。ところが、GFのサブモニターに映し出された見事なIIcを見て思わずあっと声を上げてしまいました。N先生は黙々とバイオプシーをされていました。GFも勧めてくれたN先生に今でも感謝しております。因みに医者はその科の病気になるとよくいわれていますが、まさにそれを実感しました。次は、手術をしていただいたA先生です。術式を工夫して頂いて、現在まで10年生存を見ています。しかも「胃切してメタボになったのはあんたが初めてや」とのお言葉を頂き恐縮しています。また、患者さんからは「ほんとに胃を切ったんかいな」と疑われることも。ひとえに手術してくださったA先生のおかげと唯々感謝しています。

しかし、齢60を超え、このままではいかんと思ひ、少しでもメタボ解消の一助にでもなればと、以前から時々やっていたゴルフを2年前から本格的に再開しました。これについては、後輩のK先生が以前から熱狂的で、彼に引っ張られる形でやっています。練習は週に2回、木、土の午後、殆どの休日はラウンドです。この1年で40ラウンド程こなしました。しかもK先生は年間90ラウンドで100ラウンドを目指している猛者です。

しかし練習すれば上達するというほど甘いものではなく、スコア的には悪戦苦闘の日々です。一打一打に一喜一憂することなく18ホール全体を見通してプレーをなさいと大家の先生に諭されますが、凡人の哀しさで米粒を追う雀のごとくど壺に嵌まってゆくのです。

ここでも挫けそうになる私をいつも鼓舞してくれるK先生に感謝しております。お陰で月に1回位は納得のスコアで上がれる事もありますが、メタボもまだ解消しておらず、さらなる精進を心に誓っています。

最後になりましたが、こんな好き勝手な爺さんを許してくれる我がベターハーフと愛猫の茶々丸にももちろん日々感謝しております。

乳鉢

「登り坂のススメ」



大分市医師会 濱本浩嗣

2014年4月にアルメイダ病院心臓血管外科を開設、着任して今年で4年目になりました。大学病院や岡病院に次ぐ心臓手術提供施設として日々精進しています。

アルメイダ病院勤務になって、自転車通勤をはじめました。片道10kmほどの道のりですが、車移動ではわからなかった道端の風景や、風の匂いなどいろいろと新鮮な発見がありました。そうした中でもっと軽快に、もう少し遠くへ行きたい気持ちが大きくなり、ついにロードバイクをはじめました。縁あって自転車屋さんのクラブに入り、諸先輩方にいろいろと教わりながら次第にその魅力にはまっていきました。

自転車が好きになると、休日には長い距離を走りたくなります。はじめは30km程でバテていたのですが、次第に距離は延びて1日100kmをこえるようになり、ツール・ド・国東などの大会では160km以上を完走できるようになりました。

日本の国土はその8割が山ですから、長い距離を走ると登り坂や峠道にも遭遇します。自転車乗りの中なかでも、特に登り坂を偏愛する輩を「坂バカ」とよびます。自分はどうもこの種族のようです。

しかし、私も最初のうちは登り坂が苦手でした。始めてほどなくして、クラブで走りに行った久住高原で10%を超えるきつい登り坂が続きました。10%というのは1,000m進んで、垂直に100mの高低差があるということです。高速道路にある坂はせいぜい4%ぐらいなので10%はかなりの急坂です。途中、口から心臓が出そうになりながら、最後は両足が痙攣したりして、なんとか休み休み登ったのでした。その時は自身の力のなさを痛感し、山に「出直しといで」といわれた気がしてすごく悔しかったのを憶えています。これが私の「坂バカ」のスタートでした。

何故きつい思いをしてまで自転車で坂を上がるのか？自転車ヒルクライムの魅力とは？一言で言えば「達成感」でしょうか。コース取りやペース配分などの戦略を考えつつ、頂上に向かって無心で一漕ぎ一漕ぎ登っていき、ゴールに辿り着いたときの達成感はたまりません。ですからまた次の坂に挑みたくなります。余り速くはありませんが、毎年春に行われる高千穂高原のヒルクライム大会に挑戦しています。いつか羽根が生えたように軽やかに登れる日を夢見て、休日は無心でペダルを回してお気に入りの坂を登るのです。

リレー随筆

「寄り道もまた楽し」

速見郡杵築市医師会 賀来俊彦

2年ほど前、我が家に子犬がやってきました。赤毛のメスの柴犬です。ペットショップで妻と子供が見かけて、かわいいから飼ってもいいかと相談がありました。実家で犬を飼っていたこともあり、世話が大変だしなーと思っていましたが、見に行った時に抱きかかえて、目が合った瞬間に「うちに来る？」と言っていました。そういえば昔、そんなCMがあったっけ。

さて、犬につきものといえば散歩です。もちろん我が家の犬も散歩に連れて行っています。普段は妻が連れて行くのですが、週末や休日は私が連れていきます。散歩に行こうか、と声をかけてケージを開けると、うーん、狭いところからやっと出られるわ、とばかりに背伸びをして準備運動。それから「はやくはやく！」と玄関へむかっています。

今日はどっちに行くの？「昨日は左の公園のほうに行ったから、今日は右！」はいはい。行く先々で興味深い匂いがするの、鼻を地面につけんばかりにして、匂いを嗅ぎながら歩いて行きます。

「あっちのほうが面白そうだから、行ってみる！」はいはい。「今度は左ね！」はいはい。

もうそろそろ家に帰らない？「イヤ、まだ帰らないもん！」・・・じゃあ、もう少し歩こうか。あれ、犬を散歩させているはずなのに、こちらがつれまわされている・・・？そうこうしているとあっという間に1時間から1時間半たってしまいます。そんな風につれまわされていると、自分で歩いたり車で通るだけでは行かないようなところに連れていかれ、意外なところに道が通じていることを発見したりして面白くもあります。今までの自分を振り返ってみても、先生方の勧めに従ってあちこち歩き回ってきて、その都度いろんな人や出来事との出会いを得て、今に至っている気がします。学生の頃思い描いた道とは異なっていますが、先生方やスタッフに恵まれ、今は非常に恵まれた環境にいると思います。目標を決めてそれに向かってひたむきに進むというのもカッコいいなと思いますが、うろうろ迷いつつ寄り道しながら進むのも悪くないかな、と思うのです。

そんなことを考えながら、今日も犬につれまわされています。





地域の一員として



白杵市医師会 安江 和彦

地元白杵市に開業して5年が過ぎました。医師会に入会させて頂き、予防注射や、学校健診、介護保険審査委員など自院での診療以外にも広く地元の皆様と関係が持てる機会を頂いております。

私自身も実家通勤となりましたので、地区の行事にも参加しています。特に青壮年会といって30から60歳前後の男性で作るグループにもお誘いを頂いて活動しています。内容は地区の盆踊りのセッティング、敬老会や神社のお祭りの準備運営などです。そして各イベントごとに事前会合、反省会という名の酒盛りが付属します。盆踊りの準備などでは昼過ぎからビール片手に準備をしますので踊りの本番のころには皆、いい具合に出来上がっています。

さて、我々青壮年会のお仕事のメインは何と言ってもお祭りです。わが地区の神社は今年、700年祭を迎える歴史ある神社です。毎年お祭りの前になると、そのしきたりを絶やさぬよう、長老や世話役が集まり、毎夜、公民館での子供たちの太鼓や舞の練習に余念がありません。そして、我々青壮年会メンバーの役回りは獅子舞です。獅子の中に入れるのはトップスターでありまして、経験も技術も体力も十分な40代の者が務めています。私はというと、まだまだ下っ端ですが、少しずつお役を頂いておりまして、ここ2~3年は獅子が練り歩く道を清めるお先払いという、いわば先導役をしておりました。天狗のお面に装束、なぎなたを持って高下駄で歩きます。技術は必要としないので初心者役割なのだそうです。しかし、つい最近、鳴り物に昇格？できそうな雰囲気を感じています。着物姿に袴(かみしも)をつけて数人で篠笛を吹く役です(結構渋くてカッコいい)。やる気をアピールしようと、マイ篠笛を苦勞して手に入れ、練習を始めましたが・・・これが鳴らない！リズムも独特。家族からはうるさい、勉強のじゃま！と。外科出身でもあり、そこそこ器用を自負していましたので、結構沈みます。不器用な医者では評判が落ちるかもしれないので、業務終了後、一人静まった院内で篠笛を吹いている今日この頃です。

しかし、このようなお仲間に入れて頂いて同業以外の方々とあだこうだと言いながら地元の伝統を受け継ぐ行事に参加できるというのは非常にうれしく、誇りに思えることです。いずれ子供たちや後進に指導ができる地元のおいさんになれたらいいなあと思っています。

リレー随筆



「あなたがどんな人間か分かるように踊れ」

大分市医師会 山田 博

Eテレで毎週金曜日から日曜日の夜に「奇跡のレッスン～世界の最強コーチと子どもたち」という番組がある。世界の一流指導者を呼び日本の子どもたちに1週間の熱血指導を行う番組なのだが、これがなかなか面白い。NHKは昔から視聴率を意識しない番組づくりはうまいよなと思う。「ブラタモリ」は視聴率もいいようだけど。さてこの番組に登場する指導者はサッカー、ゴルフ、野球、料理、合唱など毎回様々で、今年の3月には2週にわたり、「ストリートダンス」がテーマに選ばれていた。指導者はジャッキー・ロペスさん(38)とあって、HIPHOP界の先駆け。日本の16名の学校ダンス部の子どもたちにレッスンするのだが、まず子どもたちのきれいに揃ったダンスを見て放った言葉が、「個性がない！」これには子どもたちも、日頃指導している学校の先生も、番組を見ていた私までハッとしました。

続けて、「ダンスで大事なのは、振り付けを揃えることではなく、自分を表現すること」「ダンスであなたがどんな人間か分かるように！」子どもたち一人ずつ自由に躍らせてみると、先程までうまく踊っていた子どもたちが、戸惑うばかりで全く踊れない。。日本人なら分かる。シンクロや協調性が美德だし、型どおり全体としてきれいに見せることを重視する。あの子どもたちもそう指導されてきたのだろう。私も喜びや悲しみのあまりに自然と体が動き出したことなんて一度もない。

実は日本のストリートダンスのレベルは世界トップクラスで、いわゆるHIPHOP danceやLock dance, Soul line dance, Jazz HIPHOP dance, 近頃流行りのVogue danceまで、様々なダンサーが世界大会で優勝している。内緒なのだが、こういう随筆の場は基本的にカミングアウトの場だよなと思って言うと、私はもう10年くらいS**t kingzというHIPHOPグループの追っかけをしていて、彼らが発表するダンスはYou tubeですべて把握している。乗じて今では大体のストリートダンスの型分類はできるし、各々のダンサーが自分の芸術性や世界観を広げようと挑戦している姿も理解できるようになった。やはりどの世界でもoriginalを目指すことが個性になる。いや逆か、個性を伸ばすことがoriginalになるのか。

さて、熱血指導を受けたあの子どもたちはこれからどのようなダンスをしていくのだろう。他人に合わせず一人きりで踊ることから始めるのかな。翻って、踊れない私はどうやって踊ろう。よい医者ほどoriginalな診療はしないものだと思うのだが。



我が家に子犬がやってきた！

大分市医師会 川野達也

私は犬が怖い。医学的には恐犬症(cynophobia)というらしい。物心ついた頃から犬を見ると底知れぬ恐怖に襲われる。大人になってもその症状は軽快せず。

医学部時代に友人と街を歩いていたら、事もあろうに放し飼いの犬が通りの角から現れ、私達の方に駆け寄ってきた。私は一目散に逃げたが、歩道の段差で転んで大けがをした。しかも転んだ拍子に新調したばかりの革靴の底が完全に剥がれて抜けてしまうという始末。友人は犬をナデナデして制止し私を守ってくれたが、腹を抱えて笑い転げていた。しかし、その様子を目撃して以来、私の犬恐怖症が本物だと理解してくれた。

実家に帰った時、なぜこんなにも犬が怖いのか両親に尋ねてみた。すると小さい頃に2回、犬に咬まれたことがあるという事実が判明。1回目は頬を、2回目は手を、どちらも深く咬まれたそう。自分では何の記憶もない幼少期のことだ。こういうのもPTSDの範疇に入るのだろうか。

忘れもしない2012年10月14日(日)、私が佐伯市の病院で土日の当直しているとき、携帯に妻からメッセージが入った。

「子ども達が犬を飼いたいと言うので、今日予約しました！ヨークシャーテリアの子犬です♪」
主人が不在時の強行採決である。

医学部の同級生である妻は、学生の頃から私の犬嫌いは良く知っているはずなのに、一体どういふつもりなのか。そう言えば、彼女の実家は以前から犬を飼っていた。結婚前に実家に招待されたとき、玄関にお犬様が鎮座しており、私は門をくぐることができず、右往左往している様子を見て妻はニヤニヤ笑っていた。そうか！妻は犬好きで、いつかタイミングを見て、犬を飼いたいと思っていたに違いない。そして子ども達の賛同を得て、賛成多数で可決されたのだ。

当直明けに恐る恐るペットショップを覗いてみると、確かに「売約済み」の貼り紙の付いた生後2か月に満たないヨークシャーテリアの子犬がガラス越しにこちらを見ていた。

(こいつがうちに来るのか・・・これは困ったことになった・・・)

かなり長い間、逡巡しながらその子犬を遠巻きに見ていたら、ずっと私の様子を見ていた店員が近寄って来て、「ヨークシャーテリアがお好きなんですね!？」と声を掛けてきた。

(そんなんで見ている訳じゃないんや！こっちは一大事なんや!)と言いたい気持ちをグッと抑え、

「この犬は川野が予約している犬ですか？」と問うと、

「そうです！ あっ、もしかしてこの子の飼い主さんですか!？」

私とその質問に回答する間もない素早さで店員はケージの鍵を開けて、

「良かったねー、パパが見に来てくれたよ！ハイ、抱っこしてもらって！」と言って、犬恐怖症の私の胸に子犬を渡してきた。500gぐらいしかない子犬を落とせば命の保証はない。私は身動きもできないまま血の気が引いていくのを感じた。40年以上、犬なんて触ったこともない私の胸に犬がいる。心臓はバクバク。卒倒しそうな私の様子に気づき、店員は子犬をケージに返してくれた。

その翌週、本当に我が家に子犬がやってきた！

片手で抱ける程小さい彼（オスである）に、私はかなりビビっていた。何とか悟られないように平静を装い生活していた。程なくして、彼は私を群れの一員と理解し、私にもしっぽをフリフリするようになった。何だか可愛い（かもしれない）。

「犬嫌いには懐かないんだけどねー」と妻は言うが、彼は私を飼い主の一人として認識しているようだ。なかなか賢い（かもしれない）。

私のPTSD克服プログラムは、彼の愛くるしさゆえ順調に進んだ。もうすぐ5年が経とうとしているが、今では思春期真最中の長女・長男よりも【愛犬】の方が私の相手をしてくれている日々。抱っこはもちろん、もうペロペロされても大丈夫。四十にして犬に惑わず。

先日、中学生の長男がアレルギー性鼻炎がひどいので耳鼻科で血液検査を受けた。その結果、イヌ上皮の特異的IgEがクラス6（最高値）と判明。本物のイヌアレルギーの長男とイヌアレルギーを克服した私。人生とは何とも不思議なものだ。



愛犬と戯れる筆者近影

乳鉢

大分ふるさと第九 in 臼杵

大分市医師会 山口 智之

福井大学を卒業して初期研修医として大分に戻ることになった際に、大分チェンバーオーケストラというアマチュアオーケストラを立ち上げました。「音楽は好きだけど」「以前からオーケストラをやりたかった」という方々が次々に集い、今では100名近くで構成するオーケストラになりました。皆さん家庭や仕事の都合などもあるので各回で50名程度が演奏会に出演し、ベートーヴェンやチャイコフスキーなどに真面目に取り組む定期演奏会以外にも、施設で室内楽やアンサンブルをしたり、と楽しい時間を過ごしています。

マネジメントが好きな私は、アマチュアオーケストラとは別に数年前より「アトリエ弾」の名前で音楽会のプロデュースも行っています。テノール土崎譲、ピアノ杉目(宮添)奈央子、ヴァイオリン朝来桂一、オーケストラ・アンサンブル金沢、ピアノ前田健治、フルート原田詩子各氏のプロフェッショナルで上質な演奏会を主催して参りました。大分出身の素晴らしい演奏家の方に厳選した曲目を演奏してもらい、さらに司会・お話つきにすることで音楽会が一層味わい深い(=tasty)ものになることを皆様に知っていただきたくTasty Concert の名前をつけシリーズ化しています。

また第7回、第8回、第10回大分市ふるさとコンサートの企画・運営も担当しました。特に第10回では県内外のプロ奏者によるプロの弦楽オーケストラ「ストリング大分」を創り、ゲストにはソプラノ佐藤美恵子氏(チャイコフスキー国際コンクール第1位)を招いたところ、ホルトホール大ホールに満席のお客様を迎えることができました。

小児科医としての勤務と同様に「こども」に対してもエネルギーを注いでおり、毎年「親子で楽しむオーケストラ」を開催しています。これは未就学児親子の方に音楽ホールで無料でオーケストラの迫力を楽しんでもらうイベントでして、初回は座席数以上のお客様にご来場いただいたので消防法の関係で数百名のお客様にご入場をお断りした次第です。以後は午前午後の2回公演にしたり、往復はがきでの抽選にしたり、と工夫しています。クラシックコンサートは「未就学児の入場お断り」が多いので、この様なコンサートは重宝されている様です。県内全ての幼稚園児・保育園児にチラシを配布しています。

私は小学校時代より毎年第九の演奏会を聞いて育ち、オーケストラと独唱と合唱が織り成す壮大な世界に圧倒されていました。第九に魅入られた私は福井での学生時代も隣県滋賀県の彦根第九オーケストラに足を運び研鑽を積み、第九の奥深さを体感して参りました。そして今年2017年秋には大分県民文化祭閉幕行事「大分ふるさと第九in臼杵」を企画・運営しています。指揮者には世界コンクール2位の寺岡清高氏を迎え、独唱者には大分出身で国内外で活躍中の実力派を揃えました。オーケストラの演奏者も県内公募ですが、何より合唱参加者の方を広く募っている次第です。もし皆様と一緒に第九を共有することができましたら、それが何よりの「喜び」であります。



リレー随筆

「バレーボールと私」



大分東医師会 三好 博

ストレス発散と健康維持のために、旧大分国立病院で勤務していた時に立ち上げた9人制バレーボールチーム「EKGエーカーゲー」が誕生したのは25年前のことです。当時、医師、看護師、検査技師とMRをかき集めチームを結成し、試合に臨んだことを感慨深く思い出します。それが「大分三好ヴァイセアドラーバレーボールチーム」の出発点となり、現在は日本バレーボール・Vチャレンジリーグの首位にいます。地方のチームがここまでなるとは私も驚いています。国体では九州・大分県を代表して出場しています。最高峰のVプレミアリーグは東レ・パナソニック・豊田合成・ジェイテクト・サントリー・堺BZ・JT・FC東京の8チームで構成されています。日本を代表する大企業のチームと比べると多くの面で劣りますが、それなりにバレーボールを続けたいと願う選手・スタッフが集まり、一致団結し、チームの成績・運営に努力しています。資金面に乏しい我がチームを維持・運営するには努力が不可欠です。リーグ中、日本各地で開催される試合に参加するには、航空券の早期確保、試合会場近くのホテル確保が絶対的に求められます。近くにはコンビニや食事処のある快適なビジネスホテルの早期の確保が節約の決め手になります。私は旅が好きですから、これらは私自身が予約しています。そして何より大事なことは選手確保です。選手確保は監督・コーチに任せて、私は目下、外国選手を担当します。アジア・アフリカではバレーボール環境が不十分で芽を出せない優れた選手はたくさんいます。バレーコートは屋外で、ネットは樹木のポールで支えられており、練習環境は良くありません。フライング・レシーブなどできるはずがありません。しかし、彼らのジャンプの高さ・四肢の長さ・パワーは桁外れに優れたものを持っています。今までにケニア・エジプト・ルワンダ・南アフリカに接点があり、身体能力に長けた選手を探すのも楽しみです。また年1度の「大分三好ヴァイセアドラーカップinケニア」の名目でここ6年間続いて、毎年7月に首都ナイロビで記念大会を開催しています。Tシャツや靴下、バレーボールなどの景品を付けていますので、非常に喜んでもらっています。小さい頃、読んだシュバイツァー博士や黄熱病研究の野口英世博士などの伝記は、「将来、アフリカで医療活動する夢」を私に与えてくれました。私の独身の頃は、何か人のために何かできないかと考え、フィリピンのネグロス島やミンドロ島での医療活動は貴重な体験でしたが、いざ結婚し家庭を持つと色々な制約でできなくなりました。しかし、バレーを通じてアフリカを中心に選手の発掘や地元へ寄与できることは、医療活動に勝るとも劣らない喜びを感じます。8年前、アフリカの選手に会うために一人でアフリカを初めて訪問した時は非常に不安でした。エボラ出血熱、マラリア、エイズ、結核、狂犬病・風土病などの感染症が心配で無事に帰国できるのか私自身不安でしたが、いざアフリカを訪問すると「案ずるより産むが易し」でした。話は飛びますが、

私は負の世界遺産の広島原爆ドームに、必ず、外国選手を案内します。3年前、世界選手権が広島で開催されましたが、エジプトチームが直前合宿に我がチームと練習後、広島に入った時に原爆資料館を案内しましたが、私は今まで来日したすべての外国選手を原爆ドームに案内しています。残念なことに誰一人、原爆の悲惨さを知っている者はいなかったのが残念です。ルワンダの選手は自国の殺戮を思い出したのか「日本にもこんなジェノサイトがあったんだね」と目を潤ませていました。1994年、フツ族とツチ族との争いが勃発し、わずか約100日間で100万人が斧で切り殺された悲しい出来事です。映画「ホテル・ルワンダ」や「ルワンダの涙」を是非、観て頂き、首都キガリにある「キガリ虐殺記念館」と「ホテル・ミル・コリン」を訪れて欲しいと思います。ルワンダの治安は全く問題ありません。またゴリラの生息地がありゴリラファミリーとの出会いができる体験ツアーがありますので、次回ルワンダを訪れるチャンスがあればゴリラに逢いたいものです。足腰が丈夫なうちにゴリラの生息地に行くことが夢です。約3時間も山中を歩けるかどうか不安を覚えますが、メタボの改善に心掛け、ラジオ体操の重要性を痛感する昨今です。

(次は大分こども病院の山口智之先生にバトンを渡します。)



バレーボール大会が屋外で開催されています。支柱は木材です。(ケニア)